

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	一般財団法人長野市文化芸術振興財団	
施 設 名	長野市芸術館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	17,840	(千円)
公 演 事 業	9,467	(千円)
人 材 養 成 事 業	3,710	(千円)
普 及 啓 発 事 業	4,663	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	長野市芸術館 ジャズ・フェスティバル	2019年6月1~2日	昼の部：アマチュアミュージシャン 夜の部：プロミュージシャン	目標値	640
		アクトスペース		実績値	600
2	吉田次郎プロデュース 長野市芸術館スペシャルライブ	2019年6月29日	出演：吉田次郎、相田翔子、安部潤	目標値	352
		アクトスペース		実績値	179
3	宮川彬良プロデュース ファミリーで楽しむアキラさんの音楽教室	2019年9月8日	出演：宮川彬良、Osaka Shion Wind Orchestra、ダイナマイトしゃかりきサーカス	目標値	720
		メインホール		実績値	694
4	デーモン閣下の邦楽維新 Collaboration	2019年10月14日	出演：デーモン閣下、三橋貴風、福田栄香、外山香、松崎雄一	目標値	535
		メインホール		実績値	中止
5	Everly クリスマス・コンサート	2019年12月1日	出演：Everly	目標値	830
		メインホール		実績値	1,150
6	近藤薫プロデュース 長野市芸術館弦楽四重奏団	2020年2月2日	出演：川久保賜紀、近藤薫、佐々木亮、クリスティアン・ギガー	目標値	200
		リサイタルホール		実績値	245
7	ラ・ストラヴァガンツァ 東京(関連企画：黒木岩寿の文化人類学講座)	2020年2月	出演：ラ・ストラヴァガンツァ東京	目標値	402
		リサイタルホール		実績値	749
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	



(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	お届け芸術館/ Welcome to 芸術館	2019年8月～2月	出演：汐入規予、渡辺幸絵、竹内遥香、田中美恵子、高久史子、たぐちたみ、宮下静香、川合愛美	目標値	1,700
		市内公民館		実績値	741
2	ランチタイム・ピアノ・コンサート	2019年4月～2020年2月 偶数月 月1回開催	出演：松橋朋潤、深沢雅美、小宮山愛、神林杏子	目標値	600
		メインホール		実績値	2,022
3	長野市芸術館 凱旋コンサート・シリーズ	2019年8月31日	出演：近藤圭、加藤昌則、三宅理恵	目標値	198
		リサイタルホール		実績値	237
4	水曜ひるまのクラシック・リサイタルシリーズ	2019年4月～12月	出演：村治佳織、中川英二郎、古部賢一、幣隆太朗、彌勒忠史、篠崎友美、金子三勇士、川久保賜紀	目標値	2,240
		リサイタルホール		実績値	2,209
5	長野市芸術館 オープンハウス	2019年11月/2020年3月	練習室利用者	目標値	300
		アクトスペース・リサイタルホール		実績値	165
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p data-bbox="113 309 1479 387">社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p data-bbox="113 454 1479 577">長野市芸術館は開館から4年目を迎え、また平成31年度は指定管理第2期のスタートの年として、これまでの芸術監督制を取りやめ、5名の「シーズンプログラム・プロデューサー」と2名の「レジデント・プロデューサー」による四季に合わせたオリジナル公演を中心に事業を展開した。</p> <p data-bbox="113 600 1479 813">当館の建設時に設置者である長野市が策定した中長期構想「ながの文化ビックバンプロジェクト」では、第2期指定管理（第2ステージ）の取組を「文化芸術を通じた活動の進化と深化」とし、市民の自主的な文化活動の機会の創出や、市民参加事業の実施を謳っている。当館はこれを基に「ともに成長」の目標を掲げ、徹底した市民参加型事業の実施や、市民自らが「長野らしさ」を見出すことができるよう、アーティストとともに長野市芸術館オリジナル公演を企画・実施した。</p> <p data-bbox="113 835 1479 913">平成31年度は、東日本台風災害や新型コロナウイルス感染拡大の影響により予定していた全ての事業を実施することは叶わなかったが、市民の安全等を一番に考え、可能な限りで事業を実施することとした。</p>
<p data-bbox="113 1223 1479 1256">助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p data-bbox="113 1323 1479 1447">長野市の文化芸術振興の中心として、長野市芸術館に来館する市民はもちろん、小中学校や地域で気軽に文化芸術に触れることができる機会の創出や、市内で活動するアマチュアミュージシャンや学生の技術向上と発表機会の創出に役割を果たした。</p> <p data-bbox="113 1514 1479 1592">例：公演事業5「Everly クリスマス・コンサート」では、公演に先立ち幼稚園・保育園・小学校の計34箇所にて、46公演5,403人に対してアウトリーチを実施。</p> <p data-bbox="113 1659 1479 1827">上記事業のように開館以降アウトリーチ活動を積極的に実施しており、中山間地域へアーティストを派遣する事業（普及啓発事業1）では9箇所の市立公民館にて公演を実施した。また、新たな取り組みとして、普段ホールに来ることが難しい障がいのある子ども達を招待するインリーチ事業を実施するなど、全ての世代が文化芸術に親しむことのできる社会の創出一役を買って買っている。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

目標の設定に当たっては、各事業への来場者・参加者数の実績や、アンケート調査結果を基に決定している。平成31年度から開始した「シーズンプログラム・プロデューサー」と「レジデント・プロデューサー」による複数年継続する事業の1年目として、彼らの存在を広く市民に知っていただくことと、新たなファン層の獲得を目指し、新規来場者数の増や他公演の鑑賞意向を調査した。

	入場率	他公演の鑑賞意向	新規来場者
目標値	70%	70%	20%
実績値	86.1% (前年比 11.3 増)	81% (前年調査なし)	17% (前年比 6 増)

入場率と他公演の鑑賞意向は目標値・前年調査結果共に上回ることができ、市民ニーズに合った公演の実施と、各プロデューサーの市民に寄り添った事業展開により達成できたと考える。新規来場者数は前年を上回ったものの、目標には達さなかった。新規鑑賞者を増やし、文化芸術の裾野を広げるため、より市民ニーズを調査しながら事業内容や周知方法を検討していく必要がある。

一方、無料で0歳児から誰でも鑑賞することができる事業（普及啓発事業2）は、目標を大きく上回る来場者があった。

	来場者数
目標値	6公演 600人
実績値	5公演 2,022人 ※1公演は新型コロナウイルスの影響により中止

平成31年度より新たに開始した事業だが、当館の長野市役所と合築という施設の特徴から、市役所へ訪れた方や近隣住民の方、または出演者の友人（※出演者は近隣市町村出身のピアニスト）といった多くの市民の来場があり、また行政との協力により離れた地区からの無料送迎バスを用意するなど、広く芸術館の活動を知っていただく機会と音楽に触れる機会の創出に大きな役割を果たすことができた。影響の大きさから、次年度は開催回数を増やす予定であり、引き続きこういった事業を展開していきたい。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

「シーズンプログラム・プロデューサー」は、それぞれ季節ごとテーマを持って活動している。

季節	コンセプト	プロデューサー
春	吹奏楽	須川 展也
夏	ジャズ	吉田 次郎（公演事業2）
秋	ファミリー	宮川 彬良（公演事業3）
冬	クラシック	近藤 薫（公演事業6） 黒木 岩寿（公演事業7）

例えば、吉田次郎プロデュース（公演事業2）については、七夕を連想させるような企画とするなど、根拠を持った事業期間を設定しており、概ね計画通りに実施ができています。

また、平日の昼間に実施する事業（普及啓発2・4）のように、特定の時間帯の開催で客層が限定されるものについても、適切な客層へアプローチができており、チケットの完売や予想を上回る来場者があるなど、様々なニーズに即した事業期間の設定であった。

事業費に関しては、令和元年度東日本台風災害や新型コロナウイルスの影響による中止等を除き、概ね計画通りに執行した。その中でも、特に広報宣伝費については必要以上の経費はかけないよう職員間で意識しており、事業ごとにふさわしい広報宣伝を行うことで、経費の削減に努めている。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

久石譲氏が芸術監督に就任していた期間（～H31.3.31）のコンセプトであった『日常に芸術を』を引き継ぎながら、新たなコンセプトに『ともに成長』を掲げ、前述の「シーズンプログラム・プロデューサー」と「レジデント・プロデューサー」と職員が協力し合い公演を制作する手法とした。日常的に質の高い芸術に触れることのできる事業を継承しながらも、地域の一員である職員がアーティストと共に制作することで、より市民ニーズに沿った事業展開となった。特に長野県民は勤勉な性格だと言われており、レクチャー公演の集客率が良い傾向にある。鑑賞型の公演に併せてレクチャー企画やワンコインワークショップを織り交ぜることで、よりプロデューサーを身近に感じていただけると考えている（公演事業7）。レクチャー以外にも、公演の中に職員とアーティストのインタビュー形式のトークタイムを設けている（普及啓発事業4）。この事業では若手アーティストと楽器に着目し、トークでは楽器に対する愛着や魅力を語っていただく。これらのように、鑑賞機会の創出だけでなく、文化拠点としてアーティストが文化芸術と市民を繋ぐ橋となり、職員が積極的にかかわることで一層そのつながりを強固にしていく事業である。

長野市芸術館の大きな特徴として、長野市役所庁舎との合築がある。そのメリットとしては、普段文化芸術に自ら触れることの少ない市民に対し、アプローチがしやすい点であると考え。各事業では、事前に『市役所ロビー・コンサート』を開催することが多い。お昼休みの時間帯に30分～45分程度のコンサートを多くの市民が行き来する市役所の1階ロビーで実施することで、他の用途で訪れた市民が足を止めてコンサートを聴く機会とし、広く長野市芸術館の活動を知っていただくことと、生の演奏を気軽に聞いていただき、本公演への集客を図る狙いがある。行政の要である市庁舎と、文化芸術の創造拠点である長野市芸術館の合築は、市として文化力あふれるまちづくりの推進に大きな力を入れていくアピールとなっている。



公演事業7

関連企画：黒木岩寿の文化人類学講座



普及啓発事業4

水曜ひるまのクラシック・リサイタル  
シリーズ



公演事業3

アキラさんの音楽教室  
(市役所ロビー・コンサート)



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

長野市出身や近隣市町村で活動している実演芸術家の応援と、発表機会の提供による地元ファンの創出のため、複数の事業においてそういったアーティストにスポットを当てた事業を実施（普及啓発事業2・3）。地元で根強いファンは一定数いるものの、広く市民に知られてはいなかったアーティストを知っていただき、継続して地元から応援していく機運を高めることに繋がり、またアーティストにとっても長野市芸術館を“ホーム”と考えていただくことで、継続的な文化芸術の振興に繋げていく。

長野市が誇る実演団体として育成している「長野市芸術館ジュニア合唱団」（人材養成事業1）初の定期演奏会と相成った。ジュニア合唱団の運営に当たっては、合唱レベルの向上を図るだけではなく、芸術館が主催する幅広いジャンルの芸術作品に触れる機会を提供し、一人の「芸術家」としての感性を高め、「表現する大人」として育てている。まだ結成から短く知名度も低い状況だが、プロアーティストとの共演や無料コンサートの実施により、市民に認知いただきつつある。他事業でも中高生を対象としたクリニックの実施などこれからの文化芸術振興を担う世代の育成にも力を入れており、長野市から実演芸術家が育つことで、長野市の長期的な文化芸術の発展に期待したい。

それ以外にもアマチュアミュージシャンの発表機会の提供し、長野市芸術館が誇るホールの響きを体感していただく事業を実施した（普及啓発事業5）。長野市芸術館はホールだけではなく各種練習室を備えており、安価な価格から若年層から高齢者層まで幅広い利用があり、稼働率も高い。練習室を利用している各種団体を無料でホールでの発表機会を提供し、職員による照明等の演出を加えながら本格的なライブ・コンサートを演出することで、利用者への恩返しとリピーターの獲得、よっては実演団体の育成と普及につなげていく。3月実施分については、新型コロナウイルスの影響により、無観客の開催となったが動画配信により広く周知した。

（参考）各種練習室 H31.4～R2.3 利用状況

施設名	利用人数（人）	稼働率（％）
音楽練習室1	2,762	85.1
音楽練習室2	2,203	75.2
演劇練習室1	2,617	77.6
演劇練習室2		48.5
バンド練習室1	2,628	100.0
バンド練習室2	2,462	100.0
バンド練習室3	2,308	100.0

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当財団の運営に当たっては、設置者である長野市の指定管理料が大きな財源となるが、令和元年東日本台風災害により、長野市の財政は厳しい状況にある。その状況を鑑み、長野市芸術館の運営に係る費用の見直しを行い抑制に努めた結果、生じた残金について長野市に返還しており、文化芸術だけではなく長野市の復興へ協力する姿勢を見せている。収支に大きな影響を与えているのが、地元企業からいただいている年間協賛金の存在である。平成 31 年度は 77 社から計 22,788 千円の協賛金を頂戴している。各企業に対しては、主催公演への招待や各種広報物への社名掲載などをインセンティブとしているが、今後も協賛金を獲得していくため、協賛金の用途の明確化や、年間協賛から事業協賛への切り替えを検討している。また貸館利用の増と収入増加のため、これまで実施していなかった貸館営業を実施する方向で準備を進めている。

組織については、平成 31 年 4 月より 2 課（管理課と事業課）に再編し、各所属における役割（業務）を明確にし、運営の効率化を図った。これまでチケットセンターでは非常勤職員による窓口対応としていたが、より市民に身近で正確な案内をするため、職員 1 名をチケットセンターに新たに配置することで、距離の離れた事務室とチケットセンターの連携を密にした。

新たな人材の確保（採用）に苦慮しているが、平成 31 年 4 月に前年度にインターンシップに来ていた学生を雇用し、自らの部署以外の業務を見学させることで職員のスキルアップを図った。今後も新卒採用と長期的な人材育成が図れる体制を強化していきたい。